

会員各位

**ご家族の方にもお知らせ下さい**

発信：大連日本商工会  
医療委員長 増井 正弘

日本人医療相談室からのお知らせ

日本人医療相談室・星野医師より「インフルエンザに関して」に関するニュースレター(2007-6)が送付されましたのでお知らせいたします。

記

ニュースレター(2007-6)

インフルエンザに関して

大連市中心医院日本人医療相談室

星野真二郎

秋後半から冬後半にかけては“インフルエンザ”が流行する季節です。そこで、今回はインフルエンザについて述べたいと思います。

“インフルエンザ”は、突然の発熱（一般に38度以上のことが多い）、咽頭痛、咳などの呼吸器症状で始まり、いわゆる“普通のかぜ”と比較すると、“全身倦怠感、関節痛、食欲不振などの全身症状”が強いという特徴があります。

大連市内の病院では、（現時点では）日本の医療機関にある“インフルエンザ迅速診断キット（鼻腔粘液のウィルスの有無を調べる）”や“インフルエンザ治療薬”が入手困難であることを考えると、“ワクチンによる予防”が重要になります。

“定期接種（全員接種することが望ましい）”の対象はいわゆる“ハイリスク者”であり、具体的には

65歳以上の高齢者

60歳以上65歳未満で、一定程度以上の心臓、腎臓もしくは呼吸器機能障害、（ヒト免疫不全ウイルス[エイズ]による）免疫機能障害を有する者などです。

“任意接種（希望者かつ同意が得られた場合のみ接種）”の対象は

感染の機会が多い保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校生、特に受験期の者、あるいは“基礎疾患”のある小児

医療従事者、高齢施設の職員、声楽家など、職業上、インフルエンザに罹ると困る者

インフルエンザの被害を受け易い“慢性疾患”を有する者

妊婦（ただし、流行シーズンに入ってしまったからの接種は避ける）などです。

現行のワクチンは妊娠のいずれの時期でも安全と考えられていますが、第1三半期以前（妊娠14週以前）は自然流産の偶発を避けるためにも、避けた方が良いと考える専門家もいます。一方、母乳を与え

ている授乳児には安全であることが知られています。

なお、3歳未満の小児には、乳児院などで集団生活をしている者でない限り、一般には、勧められていません（安全性のデータが少ないことから、医師に個別に相談する必要があります）。従いまして、予防接種による“予防”よりは、むしろ“早期診断、早期治療”が重要になります。

接種後の副作用については、“局所の腫脹や発赤”などが見られることがある以外には、“発熱、頭痛などの全身反応”は極めて少ないことが知られています。“鶏アレルギー”の副作用の報告例も有りますが、実際にはきわめて稀です。神経系合併症では脳炎などの報告例はありますが、接種との因果関係は未だ明らかにされていません。

**“接種不適当者”としては**

接種当日明らかな発熱（通常は37.5度上）を有する者

“重症な急性疾患”に罹っていることが明らかな者

過去にインフルエンザ接種液の成分（鶏卵成分、ゼラチン、防腐剤、抗生物質などの添加物）によって全身性発疹や高度の発熱などの“激しいアレルギー反応”を呈したことがある者などが挙げられます。

**“接種要注意者”としては**

高度の基礎疾患（心血管系疾患、腎臓疾患、血液疾患および発育障害など）を有する者

過去にけいれんの既往のある者（特に最近、けいれんを起こした者）

過去に免疫不全の診断がなされた者などが挙げられます。

ワクチンを接種した場合には“罹患した場合でも合併症（肺炎や脳炎など）の発生率が低下する”ことが知られていますが、他のウイルスによるいわゆる“かぜ”の予防には無効です。

また、インフルエンザワクチンの効果が出る（十分量の抗体が出来る）までに3-4週間かかること、接種の効果持続期間は4-5ヵ月程度であることから、出来れば11月中旬までに接種するのが望ましいと考えられます。

以上

2007年 8月分

## 1. 邦人一般診療・健康診断受診者数

	一般診療			健康診断			受診者 合計
	成人	小児	計	成人	小児	計	
男	112	11	123	0	0	0	123
女	59	9	68	0	0	0	68
計	171	20	191	0	0	0	191
初診	140	15	155				
再診	31	5	36				

▼ (逐月追記)

## 2. 総受診者の逐月推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2005	159	120	176	156	220	202	163	202	233	168	159	188	2,146
2006	220	226	221	209	210	229	225	230	234	259	150	252	2,665
2007	213	200	218	228	191								1050

## 3. コメント

朝晩と日中の気温差が大きいこの時期、“急性上気道炎(かぜ)”で来院される患者様が目立ちます(一時期多く見られた“急性胃腸炎”の患者数は減少傾向にあります)。

また、今後、秋後半から冬後半にかけては“インフルエンザ”流行の季節でもあります。

外出後は“うがい・手洗い”を励行するとともに、(あまり無理をせず)十分な休息をとることが大切です。また、症状がひどい場合には、早めに医療機関を受診することをお勧めします。

以上